

映画「じんじん」



剣淵町絵本の館を訪れた俳優の大地康雄さんが絵本の里づくりの活動に共感され始めた、映画『じんじん』。克蘭クインを5月下旬に控え、活動も活発になってきましたのでご紹介します。

平成24年3月29日(木)大地康雄さんが剣淵町絵本の館で子どもたちや保護者を対象に紙芝居「うらしまたろう」の読み聞かせを行いました。大地康雄さんは「演技より緊張する」と話していましたが、子どもたちは大地さんの紙芝居を楽しそうに聞いていました。

同日、企画者である大地康雄さんや山田大樹監督が出席した、第一回「映画『じんじん』を成功さ



せる実行委員会」が町民センターで開催されました。会場には各団体の代表者が集まり、実行委員会から映画の協力を呼びかけられました。

また、同日行われた町民と大地さんが語り合う「大地康雄さんと語る会」では、大地さんが役者を目指すきっかけや剣淵町で食べてみたい物等さまざまなジャンルの話を町民の方と一緒に和やかに語り合いました。「農民役のエキストラはどの時代の格好をすれば良いですか」との質問に、大地さんは、「今の時代で結構ですよ」と答える等気さくに話してください、笑いが絶えない会になりました。



剣淵町では5月下旬から映画の撮影を開始します。町民の皆さまには炊き出し部隊(出演者・スタッフ等へのお昼ごはんのお世話)、土木部隊(重機での作業、ロケ現場の作成)、調達部隊(撮影に必要な物を調達)、差し入れ部隊(出演者・スタッフへ冷たいもの等喜ばれるものを差し入れます)、知恵袋部隊(ロケを撮る時、場所等のアイデアを出します)、出演者部隊(エキストラ等で出演可能な部隊ですが、人集めもお願いします)として、新聞折込みチラシで配布したとおり、映画のお手伝いを募集しています。

剣淵町民全員で楽しい映画作り支援を行っていきましょう。

『じんじん』ストーリー

石立銀三郎(大地康雄)は、宮崎県松島町で伝統芸能を伝える大道芸人。銀三郎は若い頃のコメディアンの夢を捨てきれず、そのことが原因で妻は娘を連れ、出て行った。一人娘は銀三郎によくなついでいて、毎晩銀三郎が語り聞かせる空想のお話が大好きだった。しかし、別れてからは一度も会うことを許されず、娘との思い出は彼女が6歳の時で止まったまま。

銀三郎は田植え時期になると、幼い頃家族のように過ごした高橋庄汰(佐藤B作)の家がある北海道剣淵町へ押しかけ、高橋農場を手伝っていた。高橋農場に農業研修として女子高生4人がやってきた。次第にうち解けていく3人だったが、ただ1人、日下部彩香(小松美咲)だけは心を開かなかつた。いかぶる銀三郎はその夜、彩香が別れた実の娘であることを庄汰から聞かされる。父親と娘、幼い頃の思い出が2人の心をつなぐ…

※映画『じんじん』企画書引用
※内容は変更する場合があります

お問い合わせ・映画『じんじん』ボランテニア募集先

剣淵・映画「じんじん」を成功させる実行委員会事務局(経済課商工観光室)

(電話 34 | 2 1 2 1 内線 2 3 1)